

伊勢の今を伝える

ISEBITO NEWS

新春号

第5号

いせびとニュース

●発行 伊勢文化舎 伊勢市観光協会
おかげ参り推進委員会
●発行部数 10万部
●企画・編集 伊勢文化舎
〒516-0016 三重県伊勢市神田久志本町1474-3
TEL (0596) 23・5166 FAX (0596) 23・5241
E-mail otayori@isebito.com

5

新年、新しい御敷地で

立柱祭

上棟祭

じょうとうさい

春、三月

大神が見守る中で

太柱が立ち、

棟木が上がる。

宮大工たちの心と技を尽した

遷宮造営は大詰めへ――。



遷宮で 結ぶ人の輪 心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

立柱祭で柱の木口を打つ小工たち。(外宮) 撮影/阪本博文

立柱祭・上棟祭

ご遷宮まで、あと一年余り。
新年三月には、内宮と外宮にお
いて立柱祭と上棟祭が行われる。

正宮の新しい御敷地に技師や小
工(宮大工)、神職、関係者が威儀
を正して会し、これまで造営のつ
つがなく進んだことを感謝し、無
事造営を祈る、華やきある大祭だ。
立柱祭では、青の素襖に烏帽子
をつけた小工たち、白い斎服の神
職たち約百名が参列し、さながら
古代絵巻の儀式をみるようだ。

はじめに造営の守護神である屋
船大神に神饌が供えられ、つづい
て「大宮柱の堅固で動くことにな
きよう守り給え」と祝詞が奏上
される。つづいて、丁重な八度拜

いよいよ小工たちの出番だ。八
名が御柱の前にすすみ木槌をかざ
すと、足堅と貫の木口をそれぞれ
三回ずつ打つ。「コーンコーンコ
ーン!」神域のしじまにすがすが
しい槌音が響き渡る。

上棟祭はその約二週間後。忌鍛
冶、小工ら造営関係者、神職ほか
およそ三百名が参列する大祭だ。
まず、丈量の儀。つづいて、上棟
祭はクライマックスへ(詳細は3
面に)。

現在、すべての造営は雨露をさ
けて覆い屋の中で行われている。
新しい神殿が姿を見せるのは、平
成二十五年夏、遷宮祭の直前、お
白石奉献のときとなる。

●問い合わせ 神宮司庁 広報課
☎0596・224・1111

●主な内容

- 2・3面 遷宮への道(五)
- 今春、立柱祭、上棟祭へ
- 4面 元総棟梁に聞く
- 5面 遷宮入門(その三)
- 6・7面 おかげの国をめぐる(九)
- 8面 いせびと歳時記

いよいよ遷宮造営は大詰めへ

千三百年の時の流れる中、
槌音がひびき渡り
寿言がこだまする。
平成二十五年度の遷御をめざして
両宮のご正殿造営は
緊張感に満ちた山場へ。

りつちゅうさい
立柱祭
内宮 3月4日
外宮 3月6日

ごぎょうさい
御形祭

じょうとうさい
上棟祭

のきつけさい
檐付祭

いらかさい
薨祭

内宮 3月26日
外宮 3月28日

内宮 5月23日
外宮 5月25日

内宮 7月21日
外宮 7月23日

※檐付祭・薨祭の日付は前回遷宮時



振りかぶるのは、木目もあざやかなヒノキの木槌。南北、つづいて東西から各柱を3度打ち固める。木槌で打つのは、柱と柱を貫いている四間貫（よまぬき）の木口。柱と貫、貫と貫がしっかりと噛み合っ、10本の柱がゆるぎないようにする。（内宮）



遷宮の行われる御敷地へ参入する小工たち。（内宮）

神宮式年遷宮とは――

20年に1度、正殿を始め諸社殿を新築し、殿内に供える御装束神宝も新調して神々に宮遷りしていただく、神宮でもっとも重要とされる大祭。初回は約1300年前、持統天皇の御代（690年）に行われ、来る平成25年の遷宮は、62回となる。

屋船大神に見守られて

木曾ヒノキの森で、遷宮ご用材の伐採を始める御杣始祭が行われたのは七年前のこと。その後、伊勢の神宮山田工場では宮大工たちによって用材の製材から部材の仕上げまで、着々と造営の準備が進められてきた。

年明けの平成二十四年には、造営の大きな山場である立柱祭、上棟祭が行われる。一般の建築では棟上式にあたる大祭だ。

新しい正殿の御敷地で行われるこの祭りは、遷宮のさまざまな祭事のなかでも古くから重んじられており、その日は天皇陛下が自らお定めになる習いである。まつる神は、屋船大神。



真新しい木槌を受け取る。（内宮）

木槌響き渡る立柱祭

●内宮 三月四日 ●外宮 三月六日

立柱祭とは、正殿の柱を立てるにあたり行われる大祭だ。神宮の祭りは、通常、神職によって行われるものだが、遷宮の諸祭にかぎり、「神宮式年造営庁」（右コラム）の職員が行う。立柱祭もその一つで、大宮司をはじめとする神職たちは検分役として参列する。すなわち祭りを取り仕切るのは、造営庁の主事たちなのだ。

祭りは、まず、斎服に威儀をただした造営庁の主事たちにより神饌が楯案（たてあん）といっぱいに供えられる。楯案とは、小枝を蔓で結わえて作られた野趣ある小卓だ。

ヒノキの木槌をかざして

つづいて、丁重な八度拜を行ったのち、この神事を中心である御柱の打ち固めが始まる。小工八名は、素襖烏帽子に掛明衣の凛々しい姿。二名ずつが四組に分かれて新しい正殿の南北の御柱の前にたつ。真新しいヒノキの



立柱祭に先立ち、用材が新御敷地へ運び込まれた。（内宮）

木槌が手渡されると、四人はそれを頭上高々とかざし呼吸を合わせ、コーンコーンコーン！ 神域のしじまにすずやかな槌音が響き渡る。柱の足堅（あしぢか）と貫（ぬき）の木口を木槌で打つ音だ。さらに、東西に分かれると、再び柱の打ち固めを行う。これが終わると、技師は大宮司に無事に儀式が終了したことを報告。全員で深々と一拝し、立柱祭を終わる。

神宮式年造営庁とは――

遷宮を行うにあたって、中心となる神殿造営と御装束神宝の調製を行うために設けられるのが「神宮式年造営庁」だ。遷宮の最初の祭「山口祭」の行われる年に発足、遷宮が終わる年まで八年間の期限ある機構である。遷宮造営に関係する技師や宮大工、萱工たちがこれに所属する。

遷宮の歴史をふりかえると、古くは「造宮使」が朝廷より任命されて神殿の造営にあたる一方、御装束神宝の方は「營造神宝並装束使」が調製の任に就いた。造宮使は神祇官、神宝の方は太政官に設置された臨時

の役所で業務がおこなわれた。財政的には主に時の為政者（例えば、江戸時代には徳川幕府）の寄進によった。この体勢による遷宮が近世までつづいた。

明治維新を経て式年遷宮は国家の公儀となり、「造神宮使庁」により、厳密に古儀を守って行われた。昭和二十年の終戦を期に神宮は宗教法人に。以降は式年遷宮の度に神宮内部に「神宮式年造営庁」を設け、財政的には「財団法人伊勢神宮式年遷宮奉賛会」によって広く国民の奉賛を得て遷宮が行われるようになり、現在に至る。



伊勢物
名物

赤福

本店 〒516-0025 伊勢市宇治中之切町26番地
電話 0596-22-2154(代) フリーダイヤル 0120-081381
<http://www.akafuku.co.jp/>

小工の声高らかに

上棟祭

● 内宮 三月二十六日 ● 外宮 三月二十八日



東側は技術総監をはじめとする造営庁の職員、西側は大宮司をはじめとする神職。いよいよ棟揚げの儀式が始まる。(内宮)

立柱祭から約三週間後、正宮の御敷地で上棟祭が行われる。八年間におよぶ造営の過程で最も重要な節目であり、とりわけ晴れやかなのがこの祭りだ。この祭日もまた、天皇陛下によって定められる。祭りの参列者は、大宮司をはじめとする神職全員、神宮式年造営庁からは技師の長をはじめとする忌鍛冶、小工たち四十名余り。さらに、祭主、神社本庁統理、遷宮奉賛会会長をはじめとする各界からの列席者を迎えて、およそ三百名が祭りを見守る。

小工の頭が「曳曳棟！」

垣御門の位置に立てられた「博士木」までを測量し、その丈量に相違ないことを確認し、技術総監と大宮司に報告する。その博士木に棟木より引かれた二条の白布綱が結わえられると、いよいよ「棟揚げの儀」がはじまる。二条の綱の真ん中に位置して、二人の技師が棟を持って立ち、そのうしろ中央に小工が一人立つ。まず、技師二人が棟を左・右・



竹量を手に行われる丈量の儀。(外宮)



棟木より白布綱を博士木に結ぶ。(外宮)



屋根に萱を葺き始める檐付祭。(内宮)

左と振り、「おー！」と声を発すると、背後の小工が声高らかに「千歳棟！」と叫ぶ。これにこたえて、御殿の棟木の傍に上り控えている小工が「おー！」と声を上げ槌を振り下ろす。つづいて、「万歳棟！」と叫び、「おー！」とこたえ、木槌が打たれる。さらに「曳曳棟！」「おー！」の応酬で再び槌が打たれる(外宮では、千歳棟 万歳棟 曳曳棟となえる)。

この目にしたいたいの誰しもだが、現在、神殿造営は覆い屋の中で行われている。造営中の神殿を雨露、日射から護り、宮大工たちが天候に左右されず仕事を進められるようにするため。新しい神殿が姿を見せるのは、平成二十五年夏、遷宮祭の直前、お白石持奉献のときになる。(写真は、いずれも第61回式年遷宮のときに撮影)



屋上の小工2人は「おー！」とこたえ棟木を2度、打ち固める。(内宮)

立柱祭・上棟祭の今むかし

元神宮技師 荒井留五郎さん(談)



『神宮遷宮記』※をみると、昔の遷宮の記録が細かに載っているのです。それによると、立柱祭・上棟祭が分離していなかった時代もあるし、独立してからその間隔が長くなったり縮まったりする。なぜか。技術の進歩、大工道具の発達など、種々の背景があって、実に興味深いものがあります。

一方で、初期の神宮社殿と現在のものとは、ご正殿に関しては形や大きさはほとんど変わらないとされています。けれども、用材となる丸太は戦国時代までだと細いものを平気でつかっている。遷宮もままならないほどの世の中の乱れも背景にはあります。徳川幕府がやるようになってから、その支援のもとで、木の太さもそろって柱は立派なものになってきます。



技師として活躍されていた頃の荒井さん(平成2年)。

用材の加工にしても、戦国時代には台鉋はまだなくて、溝を彫っていくにもノミやさまざまな槍鉋でやっていたらしい。それが、柱と柱の間の板壁をとりつけるのにたいへんな手間がかかるなど、立柱祭と上棟祭の間隔に関係していたのうかがえます。

現在のようなつやつやとしたヒノキの丸太が削れるようになったのは、台鉋が登場した江戸中期からのことです。

今日では、これ以上はないといえるほど社殿は美しく仕上げられています。今後は、いかに良いご用材、宮大工を集められるかが問題になってくるでしょう。

同時に、歴代の関係者が心をつくしてきた神宮建築の“神宮らしさ”の原点にたちもどる努力を忘れてはならないと思います」。

※『神宮遷宮記』とは——
持統天皇の第1回式年遷宮から明治天皇の第55回式年遷宮までの内宮・外宮・別宮・摂末社・神宝(調度品)すべての造替・遷宮に関する記録書。

荒井留五郎 プロフィール
大正14年生まれ、東京都小平市出身。昭和27年から伊勢神宮に奉職。第60、61回の式年遷宮に技師として奉仕。平成6年に神宮を退職。東海近畿地区の太神宮常夜灯を研究している。著書に『奈良県の太神宮常夜灯』、『東海近畿の参宮常夜灯』ほか。

明治13年(1880)、明治天皇の御聖断を仰ぎ、伊勢神宮の遥拝所として建てられたのが「東京皇大神宮遥拝殿」、いまの東京大神宮です。皇室の御祖神である天照大御神をまつり、国民の総氏神として仰がれる伊勢神宮(内宮)の御神徳を皇都東京にあまねく宣布し、都民の心のよりどころになるようにとの願いから創建され130年の歳月が流れました。「東京のお伊勢さま」東京大神宮は、いまでも伊勢神宮と都民の心を結んでおります。

新しい年が皆さまにとって
喜びの多い幸せな年でありますよう、
心よりお祈り申し上げます。



東京のお伊勢さま



東京大神宮

〒102-0071 東京都千代田区富士見 2-4-1
電話 (03) 3262-3566 FAX (03) 3261-4147
<http://www.tokyodaijingu.or.jp/>
JR総武線、地下鉄東西線・有楽町線・南北線・大江戸線
「飯田橋駅」徒歩5分

前回遷宮の上棟祭で「万歳棟！」の大役を果たした元総棟梁

宮間熊男さんに聞く



インタビュー

宮間熊男さん(79)は、戦後三回すべての式年遷宮を経験した稀有な伊勢神宮の宮大工である。前回、平成五年の第六十一回式年遷宮では、総棟梁として造営全般に采配をふるい、上棟祭では小工の頭としての晴れ舞台を務めた。宮大工からみた遷宮について話をうかがってみよう。

— どのようなきっかけで神宮の宮大工になったのですか。
宮間 戦後初めてのご遷宮(第五十九回・昭和二十八年)の二年前ですが、当時、私は伊勢で大工の親方に弟子入りして修業をしていたのです。神宮衛士をしている伯



3回の遷宮で仕事を共にした荒井さん(左)と。

父から宮大工を募集していると聞き、やってみたいと、話をしてもらったのです。十八歳の時でした。— 町の大工と宮大工との違いはどうでしたか。
宮間 宮大工は、まず使っている道具から違います。丸柱をつるつるに削らなくてはならないですから。はじめは休み時間も惜しんで先輩のを見ながら道具をつくっていました。道具屋に走って小遣いをはたいたこともあります。大工は道具箱の中をみると、いい仕事しているかどうかわかるものです。— 遷宮が終わると、神宮の職場で働いている大工はいったん解散となります。大半の人は町へもどっていくわけですが、私は幸い

上司に見込まれ、次の遷宮に備える、ということが残されたのです。次までは、正殿、別宮は終わっていますから、摂社・末社など小さなお宮の造営・修繕が中心になります。— 三回の遷宮造営を経験されて、変ってきたことはありますか。
宮間 職人さんの変化ですね。初回の昭和二十八年のときは昭和四年のときの遷宮経験者が半数くらいいたのに、その次には三分の一くらいになった。三度目の平成五年のときは十名くらいになっていました。

なぜかという、昔は宮大工経験者は腕がいい、ということ、町にかえってもよい仕事させてもらえたのです。今は、建物そのものが合板やプレハブが多くなつて、せっかく宮大工の修業をしてきても腕を振るうところがない、



「千歳棟」「万歳棟」と言祝ぐ宮間総棟梁。(内宮)

— 前の第六十一回式年遷宮のときは、総棟梁として采配をふるわれたのですか。
宮間 そうです。宮大工は総勢約六十人ですが、内宮と外宮それぞれに四班にわかれて、競うように仕事をします。内宮なら、一班は正殿、二班は四丈殿、三、四班で四つの御門、四重の垣、というぐあいに分担を決めるのです。昔は地元出身の大工が多かったのですが、近年、県外から神宮の宮大工仕事を習ってみたいという若い人たちが来たりしています。

— 総棟梁として心がけておられたのは、どんなことですか。
宮間 神宮の造営は決まった日時の祭事ですすんでいきますから、余裕をもって工程が進ぶように、絶えず各班の作業所へ足を運んで状況をみて相談にのったり、職人に声をかけたりしました。しかし、なにより神様のお住まいをつくっているのですから、きれいに美しく、穢れのないように、という気持ちが大仕事です。仕事仲間と争ったり喧嘩したりは一番いけないことです。人間関係を大事にするよう心がけていましたね。

— 同じ時期に技師だった荒井留五郎さんは、宮間さんのことを名棟梁だったといっておられます。勤もいい、腕もいい、統率力があると。

宮間 どの仕事でもいえることでしようが、職人の世界はとくに自分ばかりでできるといふことを態度でしめさんことには、みんながついてこない。誰にも負けないぞと気概を持ってやりましたね。

— 二回目(昭和四十八年)の遷宮で御饌殿の棟梁を務めたときは、自分の手で大事なところの仕事をやりとげましたから、周囲にも宮間はやるな、と認めてもらったと思います。

— 御饌殿のきしむ音など、神殿ならではの難しい技もいろいろあるのでしょうか。
宮間 そうです。ご正殿の御扉は鳴り木という、長押の軸の向こうに違う木をはめまして、いい音がでるようにします。外宮の御饌殿は建物自体が特殊ですし、

三百六十五日神様のお食事ごとに扉を開けたり閉めたりしますので、二、三年で音が鳴りにくくなってくる。木の摩擦で鳴るわけですから、雨の日や乾燥した日でもちがつてきます。ずいぶん、気を使いました。

— 前回の上棟祭では音頭の大役を果たされたということですが。
宮間 これは一番の大工冥利につきる役ですが、とても緊張しました。現場には、祭主さまはじめ偉い方々が三百人も並んで見ておられるのですからね。「千歳棟!」「万歳棟!」とよく通る声で言祝ぎするわけですが、一生に一回、できるかどうかの大役を果たすことができて幸運だったと思っています。

— 近づくご遷宮について一言。
宮間 前回に目をかけて育てた宮大工たちがリーダー格となって頑張っているのをうれしく思っています。最後まで、順調に立派に完成することを祈っています。

皇室から神馬の牽進

内宮に空勇号(そらいさむごう)
外宮に笑智号(えみともごう)

この秋、皇室から二頭の神馬が牽進された。二頭はあし毛のアングロアラブ種で、内宮の空勇号(18歳)、外宮の笑智号(5歳)がそれぞれ正殿で牽進式に臨んだ。二頭は栃木県にある御料牧場で大切に育てられたのち、皇居にある主馬班



外宮の神馬となった笑智号。

厩舎で飼育され、皇室行事や皇族方の乗馬で活躍した。

神馬は神様のお乗り物として古くから牽進されており、伊勢神宮でもすでに奈良時代に行われた記録がある。現在も内宮外宮それぞれに二頭ずつ飼われており、参道沿いの御厩で見ることができる。

毎月一日、十一日、二十一日には、菊花紋の馬衣をつけて神前に参する姿も見られる。



内宮の神馬となった空勇号。

見、遊ぶ、味わう...
平成のお伊勢参りを体験しに
いっぺんきておくれない。



伊勢市宇治中之切町52番地
☎0596-23-8838(総合案内)
http://www.okageyokocho.co.jp/

商売繁盛・出世開運
職務安全・出世開運
心の病・病気のケガ
学力向上・合格祈願
(入学・就職・資格・国家)
交通安全祈願
安産祈願・初宮詣・七五三



頭の深呼吸に
来ませんか?

頭之守護神 知恵の大神
頭之宮 四方神社

0598-72-2316
http://www.koubenomiya.or.jp/

●「松阪」よりJR線又は三重交通(南紀特急)
●「大内山駅」下車徒歩10分
●紀勢自動車道 紀勢大内山ICより尾鷲方面へ車で5分

遷宮入門

その三

遷宮の歴史(下)

式年遷宮の一三〇〇年におよぶ歴史の中では中断の危機があった。

しかしどんな時代にあっても

国民が平和を希求する心によって復興してきた。

今回は、戦国時代、

第二次世界大戦の敗北という

二つの大きな歴史から

遷宮を行うことの意味を考える。

遷宮中断の危機

きた式年遷宮も危機に陥った時期だったのです。

神宮の歴史の中で、戦国時代

と第二次世界大戦の敗北は最も

苦難の時代でした。大きな国難

に遭い、二十年に一度行われて

戦国時代、神宮の領地は横領されて殆どを失い、御鎮座以来の神領とされた度会・多気・飯野の神三郡も、辛うじて宮川以

遷宮の復興

と贅れてしまいます。

告げる象徴的な祭儀となったので

す。しかし、信長は式年遷宮の復興

興を見届けることなく本能寺の変

で斃れてしまいます。

信長の意志を継いだ羽柴秀吉は、

天正十二年(一五八四)に伊勢の御

師上部貞永を通じて錢一万貫文及

び金子五百枚を寄進します。この

ような寄進により天

正十三年(一五八五)

ついに式年遷宮は復興を遂げます。内宮

は実に百二十三年ぶりの正遷宮でした。

その後、豊臣家の

神宮崇敬は篤いもの

があり、秀頼による

宇治橋造替・神領地

回復などいとまがなく、寄進の総額は

十三万石に達したと

言います。その背景

には慶光院周養とい

う尼僧の活躍があり、

宇治中之切町に現存

する旧慶光院は周養

の居室として豊臣家

の淀殿が寄進したも

のです。

江戸時代に入ると、

幕府は大坂や長崎な

国史絵画「秀吉の勤皇」(神宮徴古館蔵)。天正15年に聚楽第へ後陽成天皇が行幸する場面が描かれている。

用語解説

○一社奉幣【いっしゃほうへい】

本来は一社の神社に天皇が奉幣されることだが、特に伊勢の大神宮の奉幣にのみ用いられる。かつて神嘗祭と式年遷宮の遷御が同日であったので遷御に際しての奉幣はなかったが、後世遷御の日が移動したので遷御後の奉幣も行われるようになり、永禄6年(1563)豊受大神宮遷御後の奉幣から一社奉幣と称するようになった。

○神道指令【しんどうしれい】

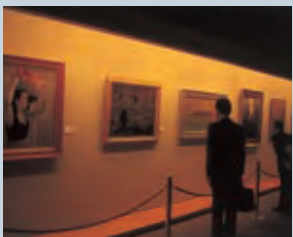
連合国軍総司令部(GHQ)が日本政府に発した指令のひとつで、正式には「国家神道、神社神道ニ対スル政府ノ保証、支援、保全、監督並ニ弘布ノ禁止ニ関スル件」という覚書である。これにより国家の宗祀と位置づけられ、法的に宗教とはみなされなかった神社の国家管理は禁止され、それに伴い式年遷宮費の公費支出もできなくなって現在に至っている。

遷宮トピックス

遷宮を奉祝した当代一流の美術工芸品が並ぶ

第61回の式年遷宮を記念して建てられた「神宮美術館」。ここに展示されている美術工芸品は、すべて式年遷宮を祝して神宮に献納されたものだ。文化勲章受章者・重要無形文化財保持者といった美術家・工芸家などによる絵画や書、彫塑、陶芸、漆芸など約50点を公開している。緑ゆたかな倉田山、神宮徴古館の隣にあり、梅や桜、紅葉など庭の木々も鮮やか。平成24年2月15日(水)から特別展「岸一歌会始御題によせて」を開催予定だ。

入館料 大人500円(特別展は700円)、開館時間 9時~16時30分、月曜休館、伊勢市神田久志本町1754-1 TEL0596・22・5533



平和な時代を積み重ねる意義

式年遷宮を行う際には古くから朝廷より造宮使と神宝使という臨時の役人が遣わされましたが、明治三十一年(一八九八)内務省に造宮と御装束神宝調進を司る常設の

昭和二十年(一九四五)未曾有の敗戦を迎え、日本は国家機構の改革を余儀なくされます。政府は昭和二十四年に予定されていた第五十九回式年遷宮継続の途を見出そうとしたが、連合国軍総司令部(GHQ)との交渉は難航し、昭和二十年十二月十四日に昭和天皇は焦土と化した国土の復興を優先するため第五十九回式年遷宮の中止を決断されます。その翌日に突如「神道指令」が出され、その影響は長くのかかることになりました。

先ずするため第五十九回式年遷宮の中止を決断されます。その翌日に突如「神道指令」が出され、その影響は長くのかかることになりました。

昭和二十年十二月十四日に昭和天皇は焦土と化した国土の復興を優先するため第五十九回式年遷宮の中止を決断されます。その翌日に突如「神道指令」が出され、その影響は長くのかかることになりました。

昭和二十年十二月十四日に昭和天皇は焦土と化した国土の復興を優先するため第五十九回式年遷宮の中止を決断されます。その翌日に突如「神道指令」が出され、その影響は長くのかかることになりました。

昭和二十年十二月十四日に昭和天皇は焦土と化した国土の復興を優先するため第五十九回式年遷宮の中止を決断されます。その翌日に突如「神道指令」が出され、その影響は長くのかかることになりました。

昭和二十年十二月十四日に昭和天皇は焦土と化した国土の復興を優先するため第五十九回式年遷宮の中止を決断されます。その翌日に突如「神道指令」が出され、その影響は長くのかかることになりました。

昭和二十年十二月十四日に昭和天皇は焦土と化した国土の復興を優先するため第五十九回式年遷宮の中止を決断されます。その翌日に突如「神道指令」が出され、その影響は長くのかかることになりました。

昭和二十年十二月十四日に昭和天皇は焦土と化した国土の復興を優先するため第五十九回式年遷宮の中止を決断されます。その翌日に突如「神道指令」が出され、その影響は長くのかかることになりました。

昭和二十年十二月十四日に昭和天皇は焦土と化した国土の復興を優先するため第五十九回式年遷宮の中止を決断されます。その翌日に突如「神道指令」が出され、その影響は長くのかかることになりました。

昭和二十年十二月十四日に昭和天皇は焦土と化した国土の復興を優先するため第五十九回式年遷宮の中止を決断されます。その翌日に突如「神道指令」が出され、その影響は長くのかかることになりました。

昭和二十年十二月十四日に昭和天皇は焦土と化した国土の復興を優先するため第五十九回式年遷宮の中止を決断されます。その翌日に突如「神道指令」が出され、その影響は長くのかかることになりました。

昭和二十年十二月十四日に昭和天皇は焦土と化した国土の復興を優先するため第五十九回式年遷宮の中止を決断されます。その翌日に突如「神道指令」が出され、その影響は長くのかかることになりました。

昭和二十年十二月十四日に昭和天皇は焦土と化した国土の復興を優先するため第五十九回式年遷宮の中止を決断されます。その翌日に突如「神道指令」が出され、その影響は長くのかかることになりました。

昭和二十年十二月十四日に昭和天皇は焦土と化した国土の復興を優先するため第五十九回式年遷宮の中止を決断されます。その翌日に突如「神道指令」が出され、その影響は長くのかかることになりました。

昭和二十年十二月十四日に昭和天皇は焦土と化した国土の復興を優先するため第五十九回式年遷宮の中止を決断されます。その翌日に突如「神道指令」が出され、その影響は長くのかかることになりました。

昭和二十年十二月十四日に昭和天皇は焦土と化した国土の復興を優先するため第五十九回式年遷宮の中止を決断されます。その翌日に突如「神道指令」が出され、その影響は長くのかかることになりました。

昭和二十年十二月十四日に昭和天皇は焦土と化した国土の復興を優先するため第五十九回式年遷宮の中止を決断されます。その翌日に突如「神道指令」が出され、その影響は長くのかかることになりました。

昭和二十年十二月十四日に昭和天皇は焦土と化した国土の復興を優先するため第五十九回式年遷宮の中止を決断されます。その翌日に突如「神道指令」が出され、その影響は長くのかかることになりました。

昭和二十年十二月十四日に昭和天皇は焦土と化した国土の復興を優先するため第五十九回式年遷宮の中止を決断されます。その翌日に突如「神道指令」が出され、その影響は長くのかかることになりました。

昭和二十年十二月十四日に昭和天皇は焦土と化した国土の復興を優先するため第五十九回式年遷宮の中止を決断されます。その翌日に突如「神道指令」が出され、その影響は長くのかかることになりました。

昭和二十年十二月十四日に昭和天皇は焦土と化した国土の復興を優先するため第五十九回式年遷宮の中止を決断されます。その翌日に突如「神道指令」が出され、その影響は長くのかかることになりました。

昭和二十年十二月十四日に昭和天皇は焦土と化した国土の復興を優先するため第五十九回式年遷宮の中止を決断されます。その翌日に突如「神道指令」が出され、その影響は長くのかかることになりました。

昭和二十年十二月十四日に昭和天皇は焦土と化した国土の復興を優先するため第五十九回式年遷宮の中止を決断されます。その翌日に突如「神道指令」が出され、その影響は長くのかかることになりました。

昭和二十年十二月十四日に昭和天皇は焦土と化した国土の復興を優先するため第五十九回式年遷宮の中止を決断されます。その翌日に突如「神道指令」が出され、その影響は長くのかかることになりました。

昭和二十年十二月十四日に昭和天皇は焦土と化した国土の復興を優先するため第五十九回式年遷宮の中止を決断されます。その翌日に突如「神道指令」が出され、その影響は長くのかかることになりました。

機関として造神宮使庁が設置され、遷宮費は国家予算に計上されるようになりました。



昭和24年11月3日の宇治橋渡初式。

戦後の混乱と占領軍の弾圧により、式年遷宮は百年は再開できないとの観測が囁かれる中、本来式年遷宮を行う年であった昭和二十四年に宇治橋の架け替えが行われました。そのニュースが遷宮中断の事実を多くの国民に知らせ、やがて日本の復興と遷宮の再開がひとつの大きなうねりとなり、わずか四年遅れの昭和二十八年に式年遷宮は再興されたのです。以来、遷宮と宇治橋の造替は四年のずれを生じて現在に至っています。

このような歴史は、遷宮は我が

国が平和でなければできないこと

を教えてくれます。先人が遷宮に

かけた念いは国の平和を希求する

心でもあったのです。遷宮を行う

ことは、平和な時代を積み重ねる

ことなのかも知れません。私たち

はその事を忘れず、先人の深い祈

りと共に六十二回目の遷宮を迎え

たいと思います。

文〓神宮司庁 石垣仁久ししがきよしひさ

神宮権禰宜・神宮司庁文化部主幹・神宮

司庁教学課研究員。

昭和37年、宮城県仙台市生まれ。國學院大

学大学院文学研究科博士課程前期修了。

海女の話聞きながら、海女小屋で新鮮な魚介に舌づつま

海女小屋はちまなかまど



漁場に近い海女小屋で、海の幸の採り手である海女達の話聞き、手焼きによる魚介をいただきます。

伊勢志摩産のあわびを使った本物の熨斗袋

伊勢熨斗



先様の健康と長寿を祝う心を形にした伊勢熨斗。各種熨斗紙・熨斗袋・祝儀袋を取りそろえています。

神話の時代から続く伊勢志摩の海女文化を伝えたい

海女文化を提供する

ひょうきちや 兵吉屋

〒517-0032 鳥羽市相差町1094番地 TEL 0599-33-6145 FAX 0599-33-7407



- ◆本社 伊勢市上地町2691-13 電話0596・23・1281(代) 0120-00-0707
- ◆本店(外宮前) 伊勢市本町19-19 電話0596・23・3141(代)
- ◆参宮楽膳 伊勢市上地町2691-51 伊勢問屋センター前 電話0596・20・3958(代)
- ◆内宮前店 伊勢市宇治中之切町87 電話0596・28・0081

E-mail info@sekiya.com
http://www.sekiya.com



12回シリーズ

おかげの国をめぐろう！



ことしも年の瀬……。冬至、前後のひと月間にわたり、宇治橋の真向こうから朝日が昇ります。お伊勢さん百二十五社のたたずむ「おかげの国」。今回は、内宮(皇大神宮)をご案内します。

その九

緑豊かな自然の精気を感じ、ゆつくりとお参りしよう

内宮めぐり

約2キロ
スタート地点・
ゴール地点
宇治橋前

日本人の総氏神さま鎮まる

一年中、全国からの参拝が絶えない「お伊勢さん」。その内宮めぐりでは、正宮をはじめとする二十社の神社を巡拝する。「お伊勢さん」と親しまれる伊勢

神宮だが、正式な名称は「神宮」という。

垂仁天皇の御世、天照大御神の鎮座地を求めて皇女・倭姫命が諸国を巡幸「この神風の伊勢の国は、常世の浪の重波帰する国なり。傍国(わがくに)のうまし国なり。この国に居らむと欲(おも)う」との大御

神の声を聞き、伊勢の地を選ばれたのがはじまりとされる。

内宮(皇大神宮)は、緑深い神路山・島路山に守られ五十鈴川のほとりにあり、いつ訪れても自然の息吹が感じられる。

ただし、一月から三月は初詣客が多く、日中はたいへん混雑する。早朝の参拝がおすすめだ。12/31(1/5までは、夜間も参拝できる。

心身を清め、御正殿へ

内宮めぐりは五十鈴川に架かる宇治橋からスタートする。この橋は俗界と聖界を分ける結果とされ、式年遷宮に先立ち、平成二十一年に架け替えられた。欄干など上部は総ヒノキ造り、橋脚は耐水性のよいケヤキ材。次の遷宮までの二十年間に一億人以上の参拝者が歩いて渡る。

橋を渡り、芝に松の緑が映える神苑へ。大みそかには、年越し参りの人のため、ここで夜明けまでどんどこ火が焚かれる。

火除橋を進むと、左手に手水舎が見える。ここで参拝の前に、手を洗い口をすすぐ「コラム1」。

一の鳥居の左手の門は、内宮斎館。祭典のとき、祭主、大宮司、少宮司をはじめ神職たちが、心身を清めるためここで参籠する。右手のしめ縄を張った場所は祓所で、大みそかの夕刻、神職を祓い清める「大祓」が行われる。

その先右手に五十鈴川の御手洗場がある。神路山・島路山に水源を持つ五十鈴川は、二見浦から伊勢湾へと注ぐ。倭姫命が、御裳のすそを濯いだことから、「御裳濯

おかげの国とは

伊勢志摩エリアは神宮の百二十五社が点在する「おかげ」を感じる「おかげの国」。官民の組織「おかげ参り推進委員会」が、おかげ参りのような旅の提案に取り組んでいる。
0596・25・5151
(事務局 伊勢商工会議所)

お伊勢さん125社とは

正宮(しょうぐう)	2社
天照大神をまつる皇大神宮(内宮)と、豊受大神をまつる豊受大神宮(外宮)。	
別宮(べつぐう)	14社
正宮の「わけみや」の意味をもち、正宮と関わりの深い神をまつる格の高いお宮。式年遷宮も正宮に続いて行われる。	
摂社(せつしゃ)	43社
927年の『延喜式神名帳』に所載されている神社。	
末社(まつしゃ)	24社
804年の『延暦儀式帳』に記載されている神社。	
所管社(しょかんしゃ)	42社
正宮や別宮に関わり、水や酒、米、塩、麻、絹など衣食住をつかさどる神々が多くまつられている。	



神苑の大焚火に参拝者の輪ができる。



大祓が行われると、新年を迎える準備が整う。



一月十一日御饗では、すべての神々に神饗を奉る。その後、内宮五丈殿で舞楽が奉奏される(拝観可能)。

供え物も御正宮に準じて行われる。荒御魂とは正宮の和御魂に対し、活動的で積極的なはたらきをする御魂で、地元の人の信仰篤く、神前で長い間お祈りする姿をよく見かける。

前に出る。段の幅は神馬の歩幅に合わせてあるとか。群馬でとれた山波石が使われ、雨に濡れた様子が美しい。石段を昇りきるといよいよ正宮の御前だ「コラム2」。祭神の天照大御神は、生命を育む太陽にたとえられる神。日本人の総氏神である。

足を伸ばして荒祭宮へ

参道へと戻り、新しい正殿の建つ新御敷地の前を過ぎ、別宮・荒祭宮へ。途中、神明造の御稲御倉がある。この倉には神田で収穫した稲穂が納められており、祭の大御饗に用いられる。隣には古い神宝類を納める外幣殿がある。

道を左に折れ、石段をくだると荒祭宮の御前にくる。天照大御神の荒御魂をまつる別宮で、祭事や

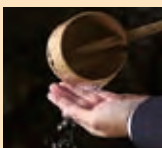


樹木が覆う正宮へと続く石段。

1 お手水

古来より、水は罪や穢れを洗い流すものと考えられており、元来は、境内近くの自然の川や山の湧き水を利用して身を清めていたが、現在では境内に設けられた手水舎を利用するのが一般的。

- ①まず、柄杓を右手に持ち、左手を洗う。
- ②次に、柄杓を左手に持ち替え、右手を洗う。
- ③次に、もう一度柄杓を右手に持ち替え、左手に水を受けて口を洗い、その後、左手を洗う。
- ④最後に、柄杓を立て、柄の部分に水を流す。



2 拝礼

柏の葉のように両手の指を揃えて打ち合わせるので、柏手を打つなどともいわれる。神宮でのお祭りの拝礼作法は、八度拝(起拝を四回)、八開手(拍手八回、短拍手一回)で行われている。また玉串は、みずみずしい神の枝に木綿、紙垂といわれる麻や紙を取り付けお供えする。

- ①姿勢を正し、深く二拝(最敬礼)。
- ②二拍手。目をとじ、しばし祈る。
- ③最後に深く一拝。

<http://www.iwatoya.co.jp>



伊勢・内宮前おはらい町
岩戸屋

TEL 0596-23-3188 FAX 28-1322

PEARL BOUTIQUE
珠庵

TEL 0596-23-6750

伊勢の上流&老舗
百福

TEL 0596-23-3236

祝平成25年 第62回神宮式年遷宮
お多福とともに岩戸屋は
今も昔も内宮前

生薑糖

ゆとりとやすらぎの宿
神宮会館
(財)伊勢神宮崇敬会

内宮に一番近い宿・歩いて5分
どなたでもご利用いただけます



〒516-0025 伊勢市宇治中へ切町152
TEL 0596-22-0001 FAX 0596-22-1517

<http://www.jingukaikan.jp>



早朝参拝の
ご案内をしております。

ある。小さな鳥居の並ぶのは、子授け・安産の信仰篤い子安神社。さらに奥にある大山祇神社は神路山の入口に坐す山の守り神だ。

宇治橋前の七社へ

再び宇治橋を渡って宮域外へ出た辺りに七社の摂末社が鎮まる。

まずは、宇治橋の守護とされる饗土橋姫神社へ。饗土とは神宮域四方の境に、悪しきものが入って来ないよう防いでおまつりする所という意味。



宇治橋の正面にある饗土橋姫神社。

両脇には2つの社があり、右が津長神社。かつてこのあたりを津長原といい、五十鈴川の船着き場があったといわれ、上陸した倭姫命がこの神社を定めたという。その左手の石段を登ると林崎文庫に隣接して大水神社がある。山の神が鎮まる社を楠の大樹が覆っている。

すべてめぐり終えたところで、

内宮門前町へ。江戸時代には「せめて一生に一度は伊勢参り」と全国各地から参拝者が訪れた、日本の旅の原点ともいえる場所。かつての伊勢詣での賑わいを楽しめる。

緑、清流、野鳥の声……
神宮の自然に触れながら、
ゆっくりまわってみませんか。

1 滝祭神

五十鈴川と島路川の合流地点に鎮まる五十鈴川守護の水の神。別宮と同様の祭典が行われる。

2 風日祈宮

祭神は風の神・級長津彦命（しなつひのみこと）。農作物の成長に風雨の災害のないよう祈り、5月14日と8月4日には、風日祈祭が行われる。

3 皇大神宮

ご神体は、八咫鏡（やたのかがみ）で三種の神器の一つ。同殿には相殿神（あいどのかみ）として二座がまつられている。

4 興玉神

大宮処の地主神。正宮、御垣内の西北隅に石神としてまつられ、同じ石量に宮比神が鎮座。御垣内なので一般には参拝できない。月次祭と神嘗祭では、真心こめて大祭に奉仕することを神職一同がこの神に祈念する。

5 宮比神

大宮守護の神。一般には参拝できない。

6 屋乃波比伎神

やのはひきのかみ（内宮所管社）神庭守護の神。板垣御門の外にまつられている。一般には参拝できない。

7 御稻御倉神

みしののくらのかみ（内宮所管社）祭神は御倉の守護神。神明造の特徴をよくあらわしている。

8 荒祭宮

あまつりのみや（内宮第一別宮）祭神は天照大御神・荒御魂。ご神霊はおだやかな和御魂と荒御魂に分かれ、荒御魂は積極的で活動的。

9 由貴御倉神

ゆきのみくらのかみ（内宮所管社）由貴御倉の守護神。由貴とは清浄でけがれないという意味。古くはお供えものや果物を納めておく倉であった。

10 御酒殿神

みさかどのかみ（内宮所管社）祭神は御酒殿の守護神。かつては諸神にお供えする神酒を醸造する所であった。

11 四至神

みやまのめくりのかみ（内宮所管社）宮域を守護する神。五丈殿の東に、石量の上にまつられる。四至とは宮の四方の意味。

12 大山祇神社

おおよまつみじんじや（内宮所管社）祭神は大山祇神。古くはこの社の前で式年遷宮の初祭である山口祭が奉仕されていた。

13 子安神社

こやすじんじや（内宮所管社）猛火のうちに無事、三柱の御子を出産されたと伝わる木華開耶姫命（このはなさくやひめのみこと）が祭神。子授け、安産の神として信仰が篤い。

14 饗土橋姫神社

あえとほしひめじんじや（内宮所管社）宇治橋鎮守神をまつる。宇治橋渡始式の際、この神社の前で祭典を行う。社からは宇治橋が正面に見える。

15 津長神社

つながじんじや（内宮攝社）祭神は水の神、栖長比賣命（すながひめのみこと）。津長神社には、倭姫命が定めた川の神・新川比賣命（にいかわひめのみこと）と、石清水の守り神

16 新川神社

にいかわじんじや（内宮末社）祭神は水の神、栖長比賣命（すながひめのみこと）。津長神社には、倭姫命が定めた川の神・新川比賣命（にいかわひめのみこと）と、石清水の守り神

17 石井神社

いしをじんじや（内宮末社）祭神は水の神、栖長比賣命（すながひめのみこと）。津長神社には、倭姫命が定めた川の神・新川比賣命（にいかわひめのみこと）と、石清水の守り神

18 大水神社

おおよすじんじや（内宮攝社）祭神は水の神、栖長比賣命（すながひめのみこと）。津長神社には、倭姫命が定めた川の神・新川比賣命（にいかわひめのみこと）と、石清水の守り神

19 川相神社

かわあいにじんじや（内宮末社）祭神は五十鈴川辺の山の神・大山祇御祖命（おおよまつみのみおやのみこと）。川相神社の細川水神（ほそかわのみずのかみ）と熊淵神社の多支大刀自神（たきおとじのかみ）が同座。

20 熊淵神社

くまぶちじんじや（内宮末社）祭神は五十鈴川辺の山の神・大山祇御祖命（おおよまつみのみおやのみこと）。川相神社の細川水神（ほそかわのみずのかみ）と熊淵神社の多支大刀自神（たきおとじのかみ）が同座。



小さな鳥居に願いを込める子安神社。



立てれもないが、静かに宮域を守る四至神。



神明造を間近に見られる御稻御倉神。



おかげの国めぐりにおすすめ!

「おかげの国」をめぐるには『お伊勢さん125社めぐり』を。歩きに便利なMAPや周辺の休憩処・土産物、伊勢神宮の知識など、旅に役立つ情報がもりだくさん。●三重県内の主要書店、観光施設ほかで発売中! 定価1260円(送料1冊80円) 関伊勢文化舎 ☎0596-23-5166



「おかげの国」をめぐるには『お伊勢さん125社めぐり』を。歩きに便利なMAPや周辺の休憩処・土産物、伊勢神宮の知識など、旅に役立つ情報がもりだくさん。●三重県内の主要書店、観光施設ほかで発売中! 定価1260円(送料1冊80円) 関伊勢文化舎 ☎0596-23-5166

3 木の香たよう参拝休憩所 新しくなった「参集殿」

参集殿では、お茶をいただき、一休みできるほか、お守りやお札、御朱印、参拝の記念品が授けられる。伊勢神宮や式年遷宮を紹介する映像も流されている。また能舞台もあって、能楽や狂言をはじめ、一年を通して音楽、舞踊、伝統芸能などの奉納が行われている。



屏風でたどる伊勢参り

おかげ参道の

4 「おかげ」の幟

おはらい町の入口の地下道「内宮おかげ参道」にある門脇俊一画伯の陶板大扉屏風は、三百年前の京都から伊勢まで五日間の旅の様子が描かれている。ゆっくり立ち止って見ると、どの部分にも当時の風俗がみごとに描かれ、まるで旅人の楽しい声が聞こえそう。その中で幟を持つ人が多いのが目につく。幟というのは「昇り旗」の略で長い布や紙に竿を通す標識や旗である。

昔のおかげ参りは村を代表する集団が多かったから、道中ではくれる仲間を見失しなわれない目印からはじまったのだろう。

「天照皇太神宮」「大神宮おかげ参り」「豊饒おかげ参り」「伊勢講」「おかげ」「いせまうで何人連れ」などや、出身の地名を記している。京・難波・大和・河内・播磨・さぬき……「の」を三つ書いたのは「みの(美濃)」である。この幟をささげる人が先頭を歩いた。ところが次第にもっと愉快に面白くやろうと、さまざまな絵など書くようになる。なにを書いたかって?

そりゃあなた、ここでは書けませんや、言えせんや。あらぬものの形などです。幟にばかりでなく大きなマツタケを作って杖の先などに刺し、口々に「〇〇〇に紙張れ、はげたらまた張れ、エジャナイカ、エジャナイカ」。若い男はもちろん老人、少女まで「何でもエジャナイカ、エジャナイカ」

本居宣長のご養子、大平さんも『おかげまうでの日記』で、「かたはらいたく、あさましく、いふもおろかなり」とあきれておられます。



文・矢野憲一
NPO法人五十鈴塾塾長。四十年間神宮に奉職した元神宮禰宜。神宮司庁文化部長、徴古館農業館館長などを歴任。著書に『伊勢神宮の衣食住』、『鮫』、『アワビ』、『枕』、『楠』など多数。

伊勢内宮前
0596-00024
三重県伊勢市内宮おはらい町
TEL 0596-224175
FAX 0596-224105

参宮客をもてなす
名物ステーキ牛丼をどうぞ

伊勢内宮前
http://www.nikodo.co.jp/

外宮さんと内宮さん、二つのお宮が
永久に光輝く地で商いをさせていただく縁より
「二光堂」と名づけました。

「和妙」にきたえ
水の良さを最大限
ひきたせるよう
作りあげた豆腐です。

伊勢おはらい町
豆腐庵山中
伊勢市宇治中之切町95番地
電話 0596-23-5558 定休日/木曜

五十鈴川の水を生かした
豆腐を作りたい

うの花どーなつ
豆乳とおかたを
練り込んだ
ヘルシードーナツです。

